

市民活動意識と団体間ネットワークの展開の考察 —茅ヶ崎市におけるエコミュージアムの可能性に関する調査から—

宮崎 貴弘¹⁾

1. 研究の背景・目的

神奈川県茅ヶ崎市では、豊かな歴史・自然環境・文化等の都市資源¹⁾を活用したエコミュージアム事業として「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館」(以下、丸博)という活動が行われている。発足から10年あまりが過ぎようとしている本事業では、運営組織の高齢化・人員不足、資金不足、市民の主体的参加等、今後の活動展開に関する問題が浮き彫りとなっており、これらを解決する取り組みが重要視されている。

本研究では上記を踏まえた上で、茅ヶ崎市内の市民活動団体間のネットワークに着目した。そして、①市民活動団体及び参加者個人の基本属性・活動状況、②市民活動団体間ネットワークの現状と団体・個人属性との関わり、③丸博への参加意識と団体・個人属性の関わりを明らかにし、団体間ネットワークによる丸博展開の可能性を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

本研究では、茅ヶ崎市内で活動する市民活動団体(以下、団体)を、丸博への参加経験あり(以下、団体A)・参加経験なし(以下、団体B)に分け、各団体の代表者及び会員3名(以下、個人A・個人B)にアンケート調査を実施した(表1)。なお、これらの団体は、茅ヶ崎市役所及び「ちがさき市民活動サポートセンター」に登録されている団体から選出している。また分析にあたり、各団体をその活動内容から、「歴史系」、「環境系」、「その他」の3系統に分類した(図2)。

3. 市民活動団体及び参加者個人の基本属性

団体:〈図3〉は、各団体の活動分野の性質分布を示している。団体Aが「歴史」、「文化」、「まちづくり」等専門性の高い分野に集中している一方、団体Bはそれらを含め、「公園整備」、「美化清掃」、「社会福祉」、「リ

サイクル」等の社会貢献性の高い分野も行っている傾向が見られた。

個人:〈図4〉は、各市民活動団体参加者個人が現在行っている地域活動分野の性質分布を示している。団体の活動分野と同じく個人Aは専門性の高い分野に集中し、個人Bは幅広い活動を行っている傾向が見られた。

表1 アンケートの配布・回収状況

	団体票		個人票	
	A	B	A	B
配布数	15	203	45	609
返信数	12	50	22	103
返信率	80.00%	24.63%	48.89%	16.91%

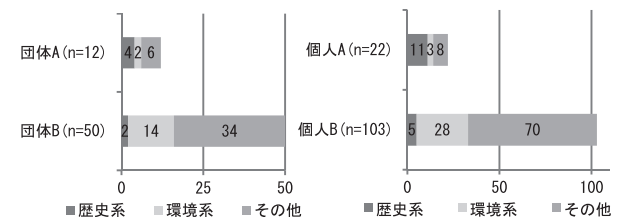


図2 調査対象団体・個人の分野

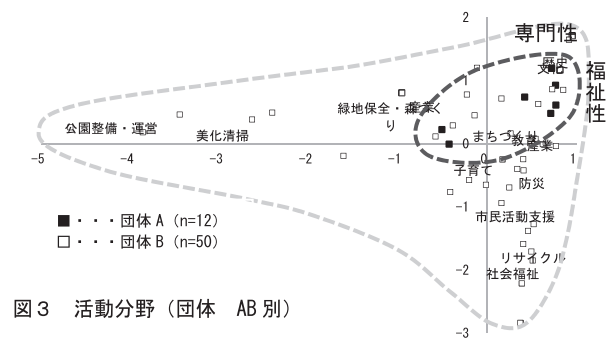


図3 活動分野(団体 AB別)

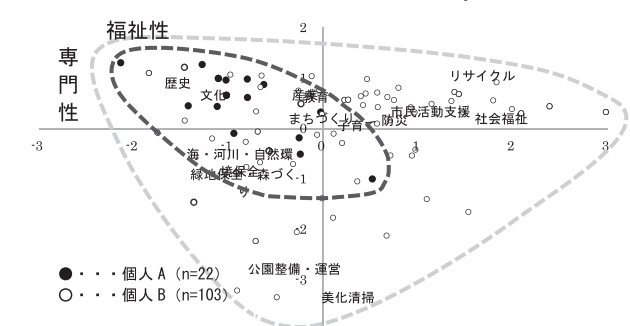


図4 行っている地域活動の分野(個人 AB別)

A study on the development of Ecomuseum with network of local peoples activities and consciousness—Case study on Chigasaki—
Takahiro MIYAZAKI, Graduate School of Urban Innovation, Yokohama National Univ.

Keywords: Chigasaki, ecomuseum, local peoples activities, network, local peoples consciousness

■市民活動団体の活動形態

調査研究〈図5〉：歴史系、環境系がそれぞれの専門分野に関する調査・研究を行っており、また歴史系は自然調査及び産業調査を行っている。

資料収集・提供〈図6〉：資料収集は各系統で行われているが、展示資料寄与は環境系で、収蔵資料台帳の作成は歴史系で行なわれている傾向が強い。

印刷物作成〈図7〉：全体的にどの系統でも印刷物作成が行なわれているが、その中でも歴史系が多い。

教育・学習・指導〈図8〉：各系統でそれぞれの専門分野に関する学習会企画が行われている。史跡巡りは歴史系、自然観察会は環境系で行なわれており、それらはその他の団体でも一部行なわれている。

展示会〈図9〉：自然系・その他で行なわれており、特にその他の団体で行なわれている傾向が見られた。

案内人育成〈図10〉：歴史系・環境系で主に行なわれている傾向が見られた。

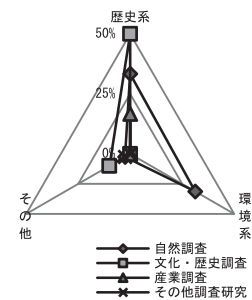


図5 調査研究

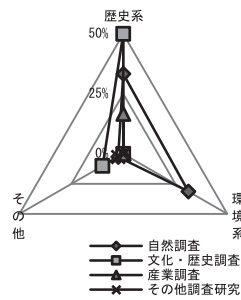


図6 資料収集・提供

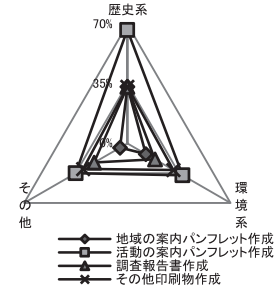


図7 印刷物作成

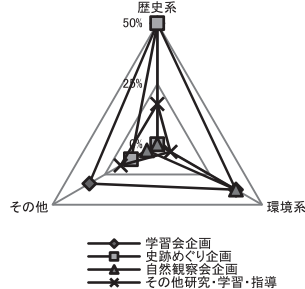


図8 教育・学習・指導

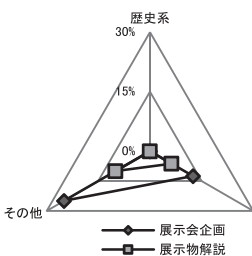


図9 展示会

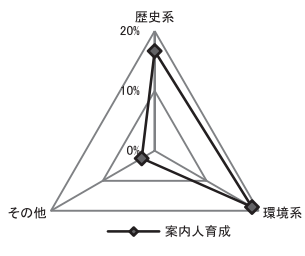


図10 案内人育成

■市民活動に参加した目的・活動に際しての意識

目的〈図11〉：個人Aは知的好奇心や、自分の知識を社会に活かそうとする目的で活動に参加している一方、

個人Bは生きがいや社会との関わりを目的としている傾向が見られた。

活動意識〈図12〉：個人Aは個人Bに比べ、「経験を通して得た知識を人に伝えたい」、「自分の住む周りの人々がうまくいくための責任がある」という意識が強く、「今まで色々なグループ、活動に多くの貢献をしてきた」という意識が低い傾向が見られた。

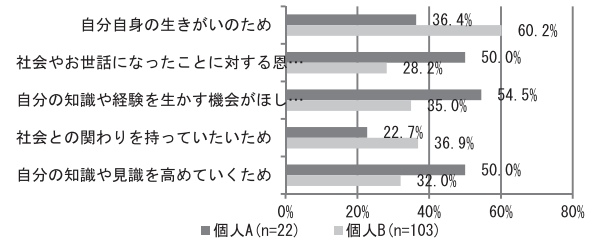


図11 市民活動に参加した目的 (個人A・B別)

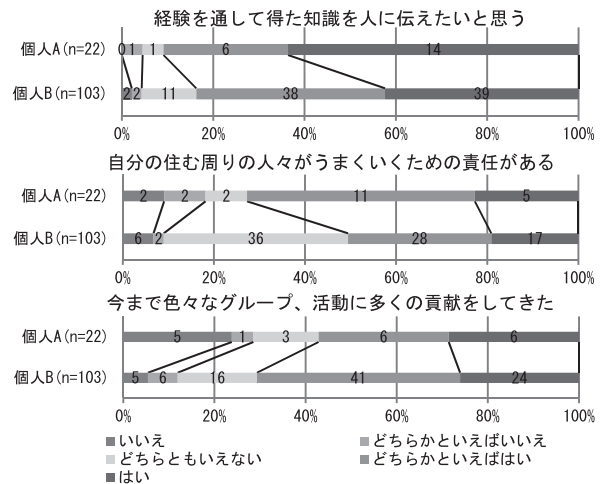


図12 市民活動に際しての意識 (個人A・B別)

4. 市民活動団体間ネットワークの現状

■市民活動団体間ネットワークの現状〈図14〉

団体間及び団体-個人間のネットワークの現状を明らかにするため、主要50団体²〈表13〉への交流状況を、団体は3段階³、個人は5段階⁴で回答してもらった。

団体間：全体的に同分野間でのネットワークが強い。また歴史系-その他間、環境系-その他間是一部見られるものの、歴史系-環境系間の交流が乏しいことが分かった。またネットワークを強く持つのは主要50団体である傾向が強く、その中でも「特定非営利活動法人NPO サポートちがさき」(市民活動支援団体)、「茅ヶ崎文化団体協議会」(24の部会を持つ文化団体)が強い。
団体-個人間：歴史系-その他、及び環境系間でネットワークが見られた。

■主要50団体間ネットワークの現状

団体間〈図15、16〉：歴史系-その他間での交流は

見られるが、環境系は同系統のみでの交流にとどまっている傾向が強い。またネットワークの起点となっているのは団体Aである傾向が強く見られた。

団体-個人間 (図17、18)：歴史系-その他で両系統の団体に所属している傾向が強いが、環境系は同系統の団体への所属にとどまっている。一方で、イベントへの参加は系統間をまたいだ幅広い交流が見られた。

■ネットワーク得点と団体・個人属性の関わり

団体及び個人ネットワーク得点⁵ (以下、得点) と団体・個人の基本属性との関わりを調べるため、各団体・個人属性、活動形態、交流対象団体等の項目と、その項目に当てはまる・交流がある場合と当てはまらない・交流がない場合とでそれぞれ得点の平均値を算出し、その差が大きかったものを(図19、20)に示す。

団体：まちづくりや市民活動支援、相談活動を行う団体と交流のある団体は得点が高く、美化清掃を行う団体は得点が低い。また団体Aや、環境や地域振興に関するイベントに積極的な団体は交流の対象となりやすく、ネットワークの起点となりやすい傾向が見られた。

個人：「海・河川・自然環境保護」、「歴史」、「文化」等の専門的活動を行う個人は得点が高く、「リサイクル」を行う個人は低い傾向が見られた。また、団体Aや、教育普及団体、イベント団体、地域振興団体がネットワークの起点となっていることが分かった。

5. 丸博への意識と団体・個人属性との関わり

丸博への参加傾向と団体・個人の基本属性との関わりを調べるため、各団体・個人属性、活動形態、交流対象団体等の項目に当てはまる・交流がある割合を、団

表13 主要50団体一覧

系統	丸博参加	番号	団体名	系統	丸博参加	番号	団体名
歴史系	B	1	川原連会	環境系	B	26	秋園ファーム21
	B	2	湘南を記録する会		A	27	文化資料館と活動する会(自然部会)
	A	3	茅ヶ崎 郷土会		B	28	ほのぼのビーチ茅ヶ崎
	A	4	茅ヶ崎郷土芸術保存協会		B	29	柳谷の自然に学ぶ会
	A	5	ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会		B	30	NPO法人 ゆい
	B	6	茅ヶ崎民話の会		B	31	NPO法人 NPOサポートちがさき(さぼちが)
	B	7	文化資料館と活動する会(考古部会)		B	32	円蔵ネットワーク
	A	8	文化資料館と活動する会(民俗部会)		B	33	湘南おやじの会
	B	9	「山田耕穂」と「赤とんぼ」を愛する会		A	34	湘南SHOW点
	B	10	NPO法人 湘南遺産プロジェクト		A	35	NPO法人 湘南スタイル
	B	11	「生きものこれ川」の応援団		B	36	湘南ふじさわシニアネット(SFS)
	B	12	NPO法人 海揚		A	37	茅ヶ崎市民文化団体協議会
	B	13	NPO法人 NPO/いばり “海と自然の教室”		B	38	茅ヶ崎市学びの市民講師有志の会
	B	14	香川自然観察会		B	39	茅ヶ崎祭囃子連合会
環境系	A	15	NPO法人 環境まちづくり湘南	その他	B	40	茅ヶ崎トラストチーム
	B	16	小出川に親しむ会		A	41	茅ヶ崎の社会教育を考える会
	B	17	駒寄川 水と緑と風の会		B	42	茅ヶ崎の文化景観を育む会
	B	18	三聖会		A	43	茅ヶ崎文化人クラブ
	B	19	清水谷を愛する会		B	44	辻堂LOVERS
	B	20	市民の森ワークショップ		B	45	ほつち茅ヶ崎書庫
	B	21	せりざわ産産花の会		A	46	まち景まち観フォーラム・茅ヶ崎
	B	22	NPO法人 ちがさき自然エネルギーネットワーク		B	47	NPO法人 まちづくりスポーツ茅ヶ崎
	B	23	茅ヶ崎自然に親しむ会		B	48	メディア茅ヶ崎
	B	24	NPO法人 茅ヶ崎つなぐ海と森		B	49	ラベンチ通りの安全・安心を進める会
	A	25	茅ヶ崎野外自然史博物館		B	50	輪軸シネマ

黒字・・・団体票返信あり

①・・・団体A

灰字・・・団体票返信なし

1・・・団体B

—— 日常的な活動協力(団体)

—— 一緒に活動した(団体)

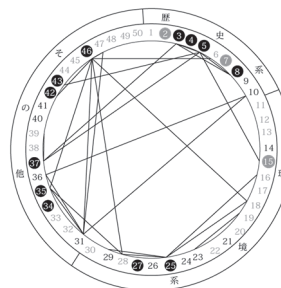


図15 日常的な活動協力(団体)



図16 一緒に活動した(団体)

—— 団体に所属している(個人)

—— イベントに参加した事がある(個人)

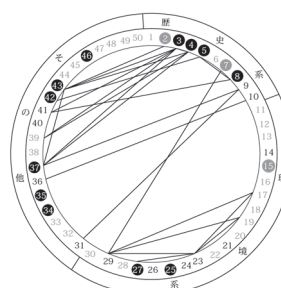


図17 団体に所属(個人)

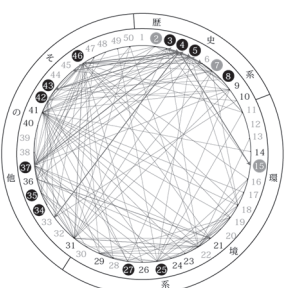


図18 イベント参加(個人)

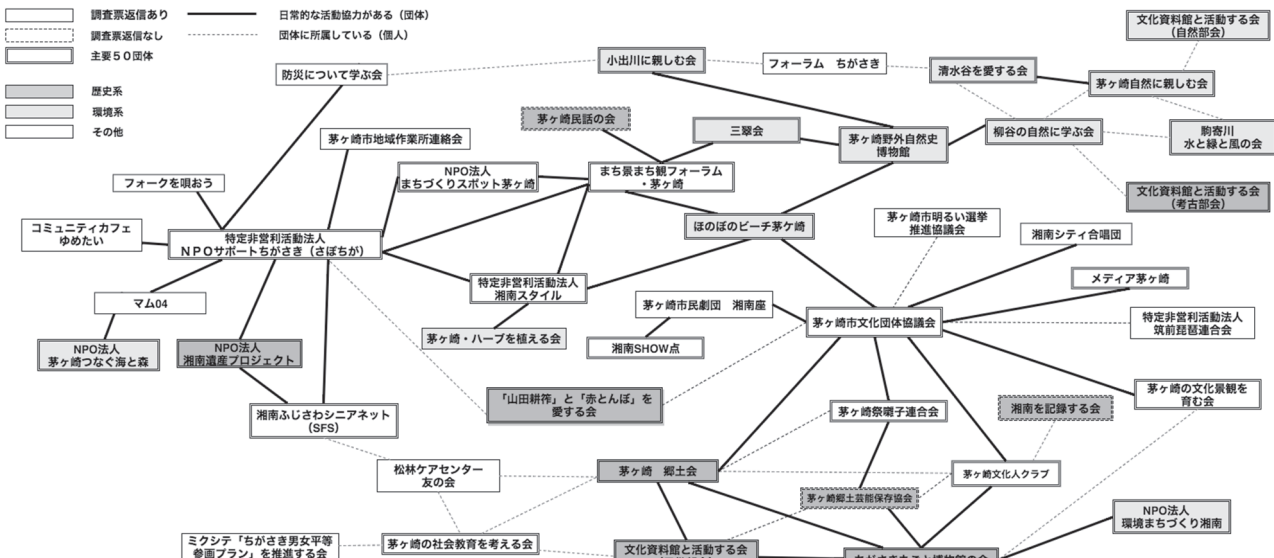


図14 ネットワーク図

体・個人ともに AB ごとに算出し、差が大きかったものを〈図 21、22〉に示す。

団体：「海・河川・自然環境保護」、「歴史」、「文化」等の分野や「収集資料台帳作成」、「展示物解説」といった学術的活動を行う団体が丸博に参加している傾向が見られた。また団体A、地域振興団体との交流が丸博参加と関わりがある事が分かった。

個人:「楽しいことをしたかったから」という目的で活動を行っている個人は丸博に参加しておらず、市民活動により「社会やお世話になったことに対する恩返しができた」と回答した個人は丸博に参加している。また、地域振興やイベント団体、教育普及団体への交流が丸博への参加と関わりがある事がわかった。

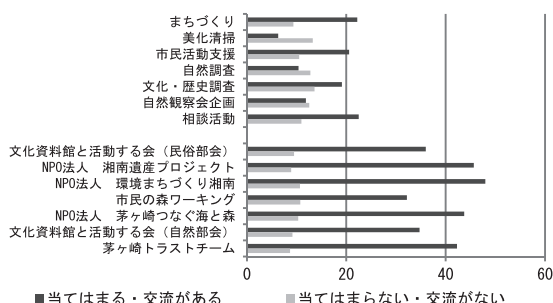


図 19 団体属性とネットワーク得点の平均値

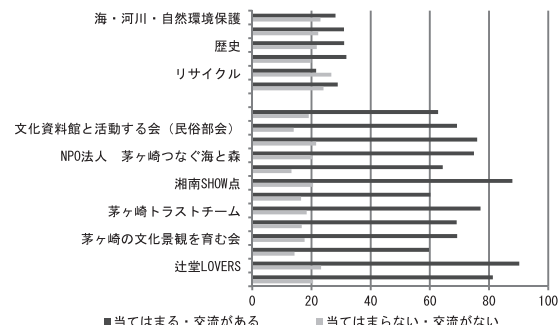


図20 個人属性とネットワーク得点の平均値

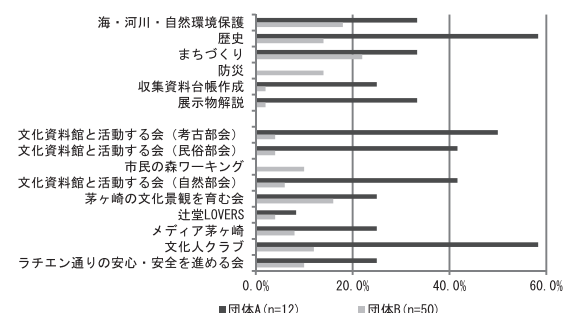


図 2-1 団体属性と丸博への参加・非参加率

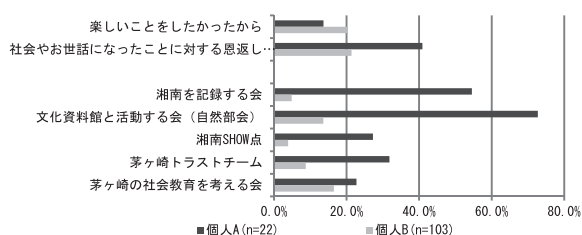


図22 個人属性と丸博への参加・非参加率

6. まとめ

①団体の活動状況：調査研究等の学術的・専門的活動は、歴史系・自然系で、印刷物作成・教育・展示等の広報的活動はその他の団体で幅広く行なわれている。

②ネットワーク：現状では系統間での交流にとどまっており、特に環境系団体でその傾向が強い。しかし、団体 A や市民活動支援や地域振興、各種イベント等を行う団体が団体・個人ともに交流の対象となり、ネットワークの橋渡し的役割をしている。

③丸博への参加意識：丸博参加は歴史・環境・まちづくり等専門的活動を行う団体・個人が多く、美化清掃・防災などの社会貢献的活動を行う団体・個人は少ない。しかし、地域貢献に対する意識は高いため、専門性を持つ個人がその知識・経験を社会貢献に役立てようとする意識が参加につながっていると思われる。

7. 考察

学術的活動は歴史系・環境系で多く見られ、広報的
活動はまちづくりや地域振興に携わる団体が強いので、
これらの団体がエコミュージアム活動の役割分担をし
ていくことが重要である。またそのネットワーク形成
のために、活動支援等を行うネットワークをもった団
体の協力や、個人を通じた潜在的なネットワークを利用
することが丸博の展開につながると考える。

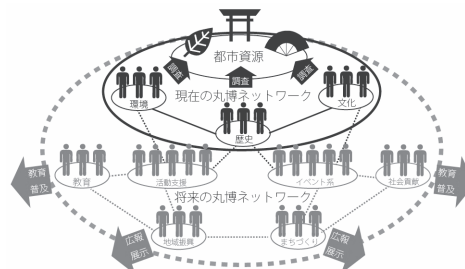


図23 期待される将来の丸博ネットワーク像

1 エコミュージアムの要素となる地域の文化・歴史・自然・産業・施設・人材等の地域に残されている有形・無形の資源で、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館では、茅ヶ崎市が都市型エコミュージアムとして展開させているという特色から「都市資源」と称している

2 ①歴史・環境・文化等の都市資源を対象とし、調査・保全等を行う団体、②他団体との交流を幅広く行っていると思われる団体、③社会貢献、地域に寄与する活動を行っている団体の中から選出

3 「1活動内容を知っている」、「2一緒に活動した」、「3日常的に活動協力をしている」の3段階

4 「1 団体の名前を聞いた事がある」、「2 メンバーの中に知っている人がいる」、「3 活動内容を知っている」、「4 その団体のイベントに参加した事がある」、「5 その団体に所属している」の 5 段階

5 主要50団体に対する交流状況を点数化し、各団体・個人ごとに合計したもの

【謝辞】調査にご協力頂きました、茅ヶ崎市社会教育課文化財保護担当高橋知氏をはじめちがさき丸ごとふるさと発見博物館運営部会の皆様およびちがさき市民活動サポートセンターセンター長中野有子様に感謝の意を表します。

1) 横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府